

# 学生による地域貢献活動報告

## 園芸療法と心理学の知見を活かしたグリーンサポーターズ

### 活動の経緯と視点

活動は3年前、清田区社会福祉協議会からのボランティア協力依頼を原点に、2年前に\*\*札幌国際大学\*\*心理学科のゼミで「園芸療法を通じた社会貢献」を目的にスタートしました。

活動開始: 2年前 (3年生ゼミ)

視点: 園芸療法のエッセンス+心理学 (コミュニケーション)

当初の連携: 清田区社会福祉協議会

### 昨年度の活動と「ニーズの発見」

初年度は社協の\*\*全依頼132件\*\*のうち、草刈り・剪定依頼（全\*\*58\*\*件中20件）を支援。作業支援を通じて、高齢者の本質的なニーズが明らかになりました。

■ 学生による支援 (20件)  
■ その他の社協依頼 (38件)



昨年度の草刈り・剪定の依頼内訳

### 発見したニーズ

- 若者との活発な**コミュニケーション**への渴望
- 民生委員が抱える高齢者の**訪問調査**の難しさ
- 民生委員の**成りて不足**

### 活動の手応え

「草刈り・剪定」という"仕事"を介することで、高齢者宅へ自然に訪問でき、コミュニケーションや安否確認へのアプローチが容易になることを実感。

## 活動の進化: 「グリーンサポーターズ」の創設

昨年の利用者からの「お金を払ってでも継続してほしい」という切実な要望を受け、

社協のルール（1回のみ）を超えた継続的な支援モデルを学生主体で創設しました。

### 昨年度モデル (ボランティア)

清田区社協からの依頼に基づき、3年生がボランティアとして活動（草刈り・剪定）。

- ・ 対象:

社協への依頼者

- ・ 課題:

支援は1回のみ。継続的な関係構築が困難。



### 今年度モデル (デュアル体制)

従来の活動に加え、  
4年生が有償の「グリーンサポーターズ」を担う体制を構築。

#### ① 社協サポート (3年生)

従来の社協ボランティアを継続。

#### ② グリーンサポーターズ (4年生)

社協を通さず、利用者から直接有償で依頼を受ける。

料金: 1,500円 (2名以上/時)

目的: 低価格で継続的な支援と学生の学び（有償の責任）を実現。

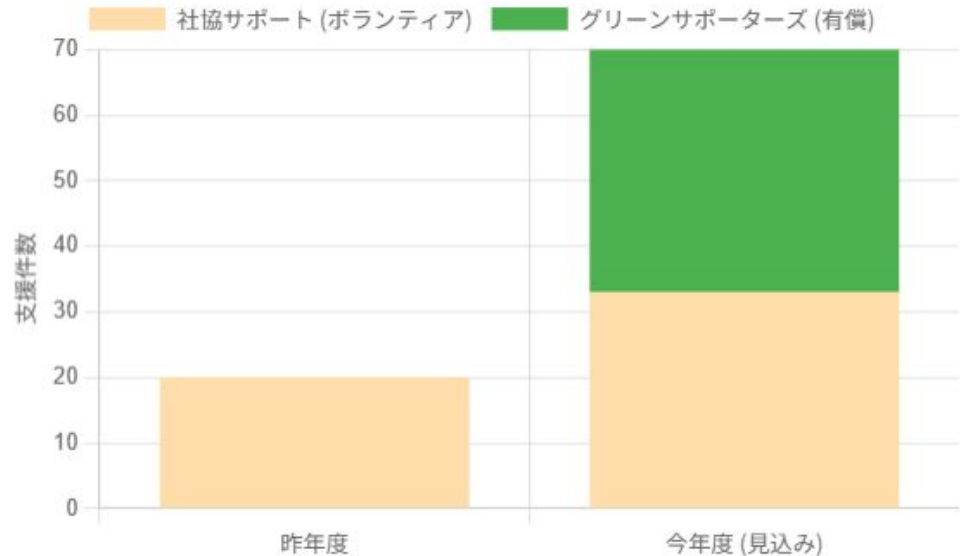
# 約 3.5倍

## 支援件数の増加

(昨年度 20件 → 今年度 \*\*70件\*\*)

### 今年度の活動実績 (飛躍)

新しい「グリーンサポーターズ」が大きな需要を捉え、総支援件数は昨年度の3倍以上に達する見込みです。(社協サポート33回、グリーンサポーターズ\*\*37回\*\*)



## 支援の多角化と学生の成長

活動は園芸作業に留まらず、学生自身の成長にも繋がっています。



### 秋以降の「サロン活動」

- ・10月 北野二葉会 大学訪問。学食での交流や学内紅葉鑑賞とガーデン散策
- ・11月 介護予防活動グループ「らら倶楽部」とモルック活動
- ・12月「らら倶楽部」と松ぼっくりを使用した園芸療法プログラム を予定



### 学生のコミュニケーション能力向上

場数を踏むことで、引っ込み思案だった学生も自ら積極的に対話できるように。社会で必須となる能力の向上を実感。

## 持続可能な活動資金

学生の主体的な応募と教員の研究費により、約130万円の活動資金を確保。これにより専門的な道具を揃え、活動の質を向上させています。

まちキャンパス助成 (30万円) 教員研究費 (約100万円)



草刈り機や芝刈り機など、庭園業者レベルの道具を整備し、学生が使い方を習得。

## 行政との連携強化: 「見守り」の仕組み化

「グリーンサポーターズ」が、行政の目が行き届かない高齢者の安否確認やニーズ把握の重要なチャネルとして機能しています。

### 1. 学生の訪問

「グリーンサポーターズ」として高齢者宅を訪問（作業・コミュニケーション）



### 2. 情報収集

学生が専用のチェックリストを用い、安否や「困りごと」をヒアリング。



### 3. 清田区へ報告・連携

収集した情報（区が未把握のケース含む）を清田区保健福祉課（担当：穴口氏）に報告。

⇒ 正式な福祉サポートへ繋ぐ体制を構築